



山都町の未来図 ～国指定重要文化財 通潤橋～

通潤橋は1854年（嘉永7年）に完成し、今年で166年となります。

1960年（昭和35年）に国の重要文化財に指定され、2008年（平成20年）に「通潤用水と白糸台地の棚田景観」が国の重要な文化的景観に選定、そして2014年（平成26年）には通潤用水が「世界かんがい施設遺産」に登録されました。

通潤橋は小学4年生の社会科の教科書に紹介されていることから、見学等で訪れたり、豪快な放水を目当てに観光客が訪れるなど県内外を問わず多くの方から愛されています。

平成28年の熊本地震や平成30年豪雨と、度重なる自然災害により、通水管の漏水や石垣の一部が崩壊するなど、建造以降初めて大きな被害を被った通潤橋。災害にも負けず、平成28年の被災から4年の長い保存修理工事期間を経て、2020年（令和2年）7月21日に豪快な放水を見せてくれました。

工事期間中には、露出した橋内部を間近で見てもらい、重要文化財の価値を将来へ継承するため丁寧に進められている工事の様子等をより多くの方々に知ってもらおうと、保存修理工事の現場見学会も開催し、町内外から多くの方にご参加いただきました。

通潤橋の復興につきましては、町民の皆様はもとより、町外にいらっしゃる町出身の方や、応援してくださる全国の方々より支援金のご寄附などたくさんのご支援を頂きました。誠にありがとうございました。

通潤橋と共に歩む 通潤橋の存在とは

被災から復興までの歩み

通潤橋は心のよりどころ



通潤地区土地改良区
理事長 甲斐長雄さん

私たちは先祖代々受け継いできた通潤橋と用水の維持管理を行っています。地震直後の朝に、通潤橋を見に行きました。石垣等が崩れていないか心配でしたが、そのまま立っている姿を見て胸をなでおろしました。重機がない時代に、あれだけの丈夫な橋を造ったことはすばらしい技術と感じました。当時も相当な研究をされたと思います。豪雨で崩れた時は、元に戻る心配でした。

う思いで作業しています。作業員は70、80代が多く、現役を引退した人が中心です。10年後は組合員も減り、ボランティアなどに頼らざるを得なくなると思います。水路の維持管理も含め、後世に遺していくためにも地区外の方々の支援が必要になってきます。通潤橋は復旧して本当に良かったですが、今後のことも考えていかないといいけません。次の世代、その次の世代にどう受け継ぐか、今からが正念場だと思っています。

観光業の推進力に！



山都町観光協会
会長 山下泰雄さん

橋の上での通水管目地の漆喰の詰め替えは、冬場の風が吹きさらしの中の作業で、とにかく寒い。材料集めも大変ですが、これをしていないと農業ができないとい

4年ぶりの放水は観光客の方と近い新鮮な気持ちで見ることができました。同じような気持ちで見られた

方は多いのではないのでしょうか。観光客目線というものは観光を考える上でとても大切な事です。今こそ山都町の観光のすそ野を広げるチャンスだと思えます。町全体で新規観光客の増加や、観光産業の強化など盛り上げていきたいです。山都町の観光業を、通潤橋と共に強くしていきたいですね。放水再開後、道の駅の売上は3割ほど増えています。通潤橋は農業用水を送る農業用施設として建設され、橋の維持管理のために行っていた放水が人を呼び、観光の目玉にもなりました。古いものは人の思いに込められてくれます。たとえば、通潤橋は、放水だけではなく、棚田や用水路など、周辺の環境にも魅力があります。山都町には深みのある魅力的なものがたくさんあるので、そういったものを一緒にPRするなど、山都町の観光業を押し広げていく推進力として中心的な役割を担ってほしいと思います。

シンボルであり、生活のためになくてはならないもの



山都町棚田復興
プロジェクト
事務局 藤本孝美さん

都市部との交流が大切になると思います。こういった活動を通して通潤橋をはじめ中山間地域に興味を持ってもらえたらと思います。

商店街の精神的な柱



浜町商店街の皆さん

通潤橋の石垣が崩れたのを見たときは、熊本地震でも大丈夫だったのに、と驚きとショックが大きかったです。通潤橋と並行してヒューム管による送水が行われていますが、分水後の末端まで潤沢に水を送るには通潤橋はなくてはならない存在です。棚田の復興や、用水路の畔が崩れ土が流れ込んだのをボランティアの方々の力を借りながら復旧しました。ボランティアの方々の力がなかったら、復旧が出来ず離農される方も多かったかもしれないと思います。今も年3回行っている用水路の管理作業に力を借りています。稲作は中山間地域では不利だと思ふので、景観や特別栽培などの付加価値をつける事や、

通潤橋の復興を祝う気持ちを、観光客を受け入れる玄関口である商店街として、形にして、その思いを観光客の人に知ってほしいと思いい旗を作成することにしました。浜町商店街（仲町・新町・下市・大川町）にとつて通潤橋は精神的な柱だと思ふ思います。復興後、初めて放水を見たときは、その力強さに感慨深いものがあり、感動しました。

山岳技術で除草を行う 全国で唯一の橋



作業にご参加いただいた熊本県山岳・スポーツライミング連盟の皆さん

山岳競技やスポーツクライミングで崖登りを行っています。手がかりにする人工物を使わず登山より難しい事もあります。自分たちの山岳技術を文化財の保護に役立てることができて嬉しいし、やりがい、楽しさを感じています。熊本城をはじめ、城の石垣等の作業はありますが、石垣の除草作業を行っているのは全国でも通潤橋だけです。作業は自主参加ですが、みんな除草作業を楽しみました。また来年の通潤橋の除草作業は、除草作業の攻略に向けて頑張ります。



ロープで下がりながら除草作業を行う

2020年	2019年	2018年	2017年	2016年
7月21日 3月	3月	5月中旬 5月7日	4月	4月14日・16日 7月
橋本体の修理工事が竣工（4・5月排水対策工事を実施） 放水再開	通潤橋の内部（震災） 石垣積み直し状況	大雨により西面（道の駅側・右岸上流側）石垣93石が崩落 崩れた箇所の再崩落防止処置（不織布・金網・モルタル吹付） 石材の回収・元の位置の特定（93石中92石を回収し、位置を特定） 修理計画の立案・補助事業申請等	目地漆喰詰め 露出した3列の通水管	熊本地震 （前震：震度5強、本震：震度6弱） 国へ補助事業申請 地震による被害状況調査（測量等）を開始 通潤橋工事前に必要な工事を実施 重機等の進入路（布田神社・御小屋間）の仮復旧 通潤用水上井手水管水路（ヒューム管）災害復旧 周辺崩落箇所の復旧